源流域の植物 2008-2012年 9月



アキノノゲシ(キク科) 草丈は1メートル以上になり、 淡黄色の花をつける。



オオアレチノギク(キク科) 頭花はとっくり形で、 舌状花はほとんど見えない。



ヒメムカショモギ(キク科) 頭花は U カップ形で、 短い白い舌状花が見える。



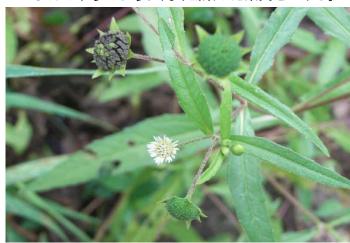
オオブタクサ(キク科) 3メートルぐらいにのび、 葉は掌状に3~5裂する。



ダンドボロギク(キク科) 花は下の張り出した円筒形で離散的につく。



タカサブロウ(キク科) 翼のあるくさび形の種子が まんじゅうのように丸く密集した果実をつける。



アメリカタカサブロウ(キク科) タカサブロウより 葉が細い。



アメリカタカサブロウの実(キク科) 翼がないが タカサブロウの実には翼がある。



ノハラアザミの蕾(キク科) 総苞片はノアザミと 違って粘らない。



ヒヨドリバナ(キク科) 先が細く裂けた白い花を 多数咲かせる。



ヨモギ(キク科) 葉は羽状に裂け、裏に灰白色の 綿毛が密生する。



ヒロハホウキギク(キク科) 細い枝を横に広げ、 葉は細長く、茎をいだかない。



ホウキギク(キク科) 花は直径 5~6 ミリ、草丈は 1 メートルぐらい。



キンミズヒキ(バラ科) 奇数羽状複葉で、長い花茎に 黄色い5弁花をまばらにつける。



ヤマハッカ(シソ科) 葉は広卵形で、茎先に青紫色の唇状花を輪生状につける。



イヌコウジュ(シソ科) 紫色の唇形花をつけた花穂 をのばす。



ナギナタコウジュ(シソ科) 葉は狭卵形で、紅紫色の 花が片側だけについた花穂をのばす。



ヤブマメ(マメ科) 葉は3小葉で、紫色を帯びた花を 数個ずつ付ける。



ノササゲ(マメ科) 葉の裏面は白く、淡黄色の花が 総状につく。



ヌスピトハギ (マメ科) 3 小葉の葉をもち、淡紅色 の小さい花がまばらにつく。



メドハギ(マメ科)3枚一組の葉が茎に密生し、 黄白色で紫色の斑紋のある花をつける。



ナンテンハギ(マメ科) 3枚一組のナンテンのような 葉がつき、紅紫色の花が総状につく。



ヤハズソウ(マメ科) 茎に毛があり、葉は斜めにならんだ側脈が目立つ。



ツリガネニンジン(ナス科) 茎に輪生する枝先に 淡紫色の釣り鐘形の花をつける。



イヌホオズキ(ナス科)白い花と丸い液果をつける。



オトコエシ(オミナエシ科) 花の形はオミナエシのようであるが色は白く、茎は太い。



ゲンノショウコ(フウロソウ科) 紅紫色か白色の 5 弁花をつける。熟すと種をはじき飛ばす。



ミズヒキ (タデ科) 長い花茎に鉤のついた赤い小さい 花をまばらにつける。



キツネノマゴ (キツネノマゴ科) 毛の生えた萼が 目立ち、花はまばらに咲く。



ヒナタイノコズチ (ヒユ科) 全体に毛があり、 果実は密に並び、熟すと衣類にくっつく。



ヒカゲイノコズチ (ヒユ科) 全体に毛が少なくて 葉はうすく、果実はややまばらに並ぶ。



コニシキソウ(トウダイグサ科) 茎は地面を這う。



オオニシキソウ(トウダイグサ科) 茎は立ち上がる。



コミカンソウ(トウダイグサ科) 枝の下側に小さい ミカンのような果実がつく。



コアカザ?(アカザ科)葉は広被針形で裏が白っぽく、若葉は紅紫色。



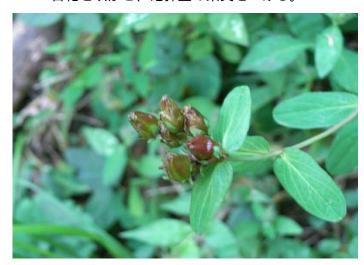
アカバナ (アカバナ科) 葉は卵形で、淡紅色の5弁花を咲かせ、棒状の蒴果をつける。



チョウジタデ(アカバナ科) チョウジに似た花筒が 赤く花被片の黄色い花をつける。



トモエソウ(オトギリソウ科) 花弁が巴形にねじれる 1日花を咲かせ、砲弾型の果実をつける。



オトギリソウ(オトギリソウ科) 広被針形の葉が対生し、蒴果がつく。



クワクサ(クワ科) クワのような葉の腋に雄花と雌花 が丸くかたまってつく。



ザクロソウ(ザクロソウ科) 葉がザクロの葉に似て おり、小さい球果をつける。



イヌビユ(ヒユ科) 紫褐色を帯びた茎が根元から分枝し、卵形の葉は先がへこむ。



アキカラマツ(キンポウゲ科) 葉は3出複葉で小葉は 広卵形であり、円錐花序に白い花をつける。



カラムシ(イラクサ科) 葉は縮んだようなしわがあり、 葉柄付近から花穂がたれる。



アオツヅラフジ(ヅラフジ科) 葉は心臓形で、青い球形の液花が総状につく。



マルバルコウ(ヒルガオ科) 葉は先のとがった卵形で、花は朱色で5角形に見える。



ツルボ(ユリ科) 彼岸近くにまず花茎だけ出して 淡紫色の花を咲かせる。



ヤマホトトギス(ユリ科) 花被片の上部が反り返る ところがホトトギスと違う。



オニドコロ(ヤマノイモ科) 葉は円心形で、雄花序は直立し、雌花序は下垂し、果実は3つの翼をもつ。



ガガイモ(ガガイモ科) つる性で、角のように とがった大きな袋果をつける。



イヌビエ(イネ科) 花茎から出る多くの短い枝に、 緑色で卵形の小穂を密生させる。



ケイヌビエ(イネ科) イヌビエに似ているが、長い 芒がある。



エノコログサ(イネ科) 茎先に長い剛毛のある穂が つく。あまり垂れ下がらない。



アキノエノコログサ(イネ科) エノコログサより 大柄で穂が低く垂れる。



チカラシバ(イネ科) 丈夫な茎の先に暗紫色の剛毛を 持つ穂が直立する。



ネズミノオ(イネ科) 灰緑色でネズミの尾のような 穂がのびる。



キンエノコロ(イネ科) 短く黄色い剛毛のある穂が直立する。



スズメノヒエ(イネ科) 枝の片側に小穂を2列に つける。



シマスズメノヒエ(イネ科) 小穂を4列につける。



カゼクサ(イネ科) 紫色を帯びた小穂を円錐状に 多数まばらにつける。



ノガリヤス(イネ科) 葉は途中で反転し、細長い 円錐状の花穂をつける。



ジュズダマ(イネ科) 葉の中脈が白く、固い壺型の 苞鞘の中に雌花がある。



アブラススキ(イネ科)全体に油光沢があり、花序の枝が糸状に垂れ下がって細長い小穂をつける。



セイバンモロコシ(イネ科) 黄褐色の小穂をつけた 枝が輪生する。



アシ(イネ科)太くて固い茎の先に大きな穂をつける。



コメヒシバ(イネ科) メヒシバより全体に小さく、 花序の枝も2~3個しかない。



ハイヌメリ(イネ科) 葉をもむとヌルヌルし、花序は 細長い円筒形。(ヌメリグサの茎は基部から直立する)



テンツキ (カヤツリグサ科) 花茎が数個に枝分かれし、 先に紡錘形で黄褐色の小穂をつける。



アゼガヤツリ (カヤツリグサ科) 枝分かれした茎先に 黄褐色の細長い小穂を放射状につける。



ヒメクグ(カヤツリグサ科) 茎先の長い苞の間に 球形の花序をつける。



タマガヤツリ (カヤツリグサ科) 茎先の苞の間に 球形の花穂を数個つける。



アオガヤツリ? (カヤツリグサ科) 長い苞をもつ花茎 は数本に枝分かれし、頭状花穂をつける。



メリケンガヤツリ(カヤツリグサ科)平で緑色の小穂 が頭状に集まる。



コゴメガヤツリ (カヤツリグサ科) 茎が3つに 枝分かれし、さらに小枝に分かれる。



ヒデリコ(カヤツリグサ科) 花枝が数回枝分かれし、 先に赤褐色の球形小穂をつける。



テンツキ (カヤツリグサ科) 枝分かれした花枝の 先に長卵形で赤褐色の小穂をつける。



ナキリスゲ(カヤツリグサ科) 葉は細くてざらつき、 黄緑色の小穂をややまばらにつける。



アブラガヤ(カヤツリグサ科) 花序は数回分枝し、 先に茶褐色の鱗片に覆われた小穂が多数つく。



エゴノキの実 (エゴノキ科)果実は緑白色で熟すと 黒くなる。



ナツツバキ(ツバキ科) 白い5弁花を咲かせ、丸い蒴果 は熟すと先が5つに裂ける。



ミッパアケビ (アケビ科) 葉は3小葉からなり、 長楕円形の液果が紫色に熟す。